

東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2011年9月30日

誠実な行いと信仰

親愛なるムスリムの皆様

誠実な行いとは、意向や意志に基づいて行われ、自覚を伴う行動、そして尊い仕事を意味します。それが行なわれた時に善行となり、アッラーと預言者ムハンマドのご命令や禁止事項に適う全ての行為は誠実な行いです。何らかの行為がここでいう誠実なものとするためには、それを行なう人がムスリムであること、信仰の求めるところとしてそれを行なうこと、クルアーンやスンナに適したものであること、完全なイフラスとよい意志によって行なわれることが必要となります。

信仰が守られそれが心に根付くためには実践が必要です。思考の段階から行動の段階へと移行していない信仰は、果実のない木のようなものです。心に存在する信仰の光が消えることなく輝き、しだいに力強さを増すためには、誠実な行為が必要です。誠実な行為は信仰を強め、道徳的にも成熟を促すものとなります。崇拝行為によって育った信仰という木の果実は、よい徳です。信仰し、誠実な行為を実践し、正しさと忍耐を人々に勧める人は、来世での悲しみから救われます。アッラーはクルアーンで次のように仰せられています。「時間にかけて（誓う）。本当に人間は、喪失の中にいる。信仰して善行に勤しみ、互いに真理を勧めあい、また忍耐を勧めあう者たちの外は。」（時間章1-3）

また預言者ムハンマドは誠実な行為が私たちに死の先においても同行すること、墓にはただ信仰と誠実な行為のみを伴って入ることになることを次のように説かれてい



ます。「死者には、墓場まで三つのものが同行する。そのうちの二つは戻ってしまいが、一つはいつまでも死者と共にいる。家族と財産と行為が死者に墓場まで同行する。家族と財産はそこから戻っていつても残された行為だけは死者と共に残る。」

誠実な行為を実践する際には、意志がきちんとしたものである必要があります。

アッラーのご満悦以外の目的を持って崇拝行為は行なわれません。アッラーへなされる崇拝行為にそれ以外のものを配すること、現世的な利益を得ようとする、集団において誉れを得ようとするなどは、崇拝行為の精神と相容れないものです。こういった意志や精神で崇拝行為を行うことは罪となります。アッラーがしもべに対し満足なされることは、そのしもべにとって現世と来世で最大の幸福であり最大の恵みです。だからアッラーにご満足いただけるような言動、態度を示すことは私たち皆の務めであり、目的となるべきなのです。

誠実な行為は、私たちの心にある信仰とよい意志によって行かなわれた場合、崇高なる主のもとにまで至るものとなります。想像を超えた美を備える天国へ行くこと、そこでの位階を高めることの要因となります。いつの日か私たちの魂は召され、私たちに与えられていた寿命という恵みが尽きるのです。全ての自我は死を味わい、地面の暗い懐に抱かれるのです。私たちの肉体は腐っていきます。それでも、私たちの信仰と誠実な行為は永遠に残るのです。